

名城大学 経済・経営学会会報

No.97

『名城論叢』
第二十五巻 第一号 付録
二〇二四年九月二〇日
名城大学 経済・経営学会 発行

アメリカの州立大学より
……堀川 ジャスミン
一般会計収支計算書……………
12 1

アメリカの州立大学より

堀川 ジャスミン

監修・注釈 堀川新吾

こんにちは！ 堀川ジャスミンです。父がAfrican American(いわゆる黒人)ですからアメリカとの二重国籍で、アメリカでの名前は Jasmine Tokiawa Roderickです。中学までは日本の地元神奈川県横浜須賀町でしたが、高校はアメリカの地元、ヴァージニア州チェサピークの公立高校に通って、今はヴァージニア州立 George Mason University (GMU) に通っています。後期の試験が終わって、今は夏休み。GMUでの一年間を振り返ってみます。

どうも。ジャスミンの伯父の堀川新吾です。日本の大学生にアメリカの大学生活を知ってもらうのは有益だろうと思っ、て、姪のジャスミンに学生生活を書いてもらうことに

しました。日米の違いなど細かな注釈も必要だろうと思うので、注釈を書いたり、ジャスミンにツッコミを入れたりしていきます。

大学選びと入学

まず高校ですが、アメリカでは高校までが義務教育で、公立高校の授業料は無料です。だからアメリカでは地元の公立高校に進学するのが普通です。私立の高校はまったく一般的ではありません。もちろん私は公立高校でした。私立の高校は全寮制の進学校みたいですが、公立で進学校とかいうものはありません。

高校生の全員が大学に行くわけではなく、半分ぐらい、特に男子は軍隊に行く人が多いです。だから高校生は大学に進学するか、軍隊に行くか、それとも就職するか之三つに分かれます。アメリカの大学は日本のような独自の基準があり、それによって入学が審査されます。スマホの大学出願アプリ Common App というものがある、アメリカの高校生はそこから自分の受けたい

大学を検索し、それぞれの受験条件に合わせて願書を送ります。願書は全米の大学に送ることができて、お金はかかりませんが、日本の大学のような入試はありませんが、SATとACTという大学進学のための共通テストがあり、そのスコアを要求する大学も多いです。しかしそうしたスコアよりむしろアメリカの大学は、高校の時のGPAによって受けられる大学も大学に受かる可能性も違ってきます。

私が高校生るとき、進学する大学を決める際には、公立で教育レベルが高く国際的な学校を探しました。私が今通っているGMUはヴァージニア州立で、とても国際的な学校であり、州の中ではレベルの高い大学と言われています。近くにはアメリカの首都であるワシントンDCがあるため、大学生にとっては環境の良いところであり、私の信頼できる友達がそこに行くと言っていたので、私もこの大学に行く事を決めました。

この大学の出願は、エッセイ、学校からの質問、高校のGPA、SATまたはACTのスコアが条件でした。エッセイは大学からいくつかのテーマが決められているので、その中から自分で選んで書きます。私が選んだテーマは「人々はなぜ音楽を聞くとリラックスできるのか」でした。学校からの質問は、大学側からたくさん質問がウェブサイトに乗っているものでそれに回答します。質問の内容は家族のことであったり（親の年収も聞かれます）、どのような課外活動やスポーツ、生徒会活動、ボランティアをやっていたのか等、自分の情報を詳しく聞かれます。高校のGPAは高校三年間の通算のGPAを提

出します。私はGPAが3.5と高かったので、SATやACTのスコアは求められませんでした。

このようにアメリカの大学と日本の大学の出願方法やテストの方法は全く違います。

GMUのレベルがどの程度であるか説明するのは難しい。Times Higher Education 世界大学ランキング二〇二四年版を見ると、GMUは四〇一〜五〇〇位のゾーンにある。日本でこのゾーンに位置する大学は東京医科歯科大学のみであり、これは総合大学でないから比較の対象にはしづらい。名古屋大学が二〇一〜二五〇位、三五一〜四〇〇位に北海道大学と筑波大学、より下の六〇一〜八〇〇位に（公立）会津大学・広島大学・慶応義塾大学・神戸大学が位置している。ざっくり筑波大学と神戸大学の間ぐらいという感覚だろうか。

ジャスミンがGMUに入れたのはGPA 3.5だけではなく、と思う。アメリカの公立高校ではHonor Rollという成績優秀者表彰制度がある。ヴァージニア州の場合はセメスターごと、州議会（上院・定数四十と下院・定数百）の議員さんの選挙区ごとに枠があるようで、ジャスミンは下院議員さんから二度、上院議員さんから一度Honor Rollを受章している。このことが大きく作用したのであることは想像に難くない。

ところでジャスミンさあ、アメリカでGPAの扱いはどうなってるの？ たえばチャリーディングは成績がトップクラスでなければ、そもそもやらせてもらえないと

か聞いてるけど？

高校でも大学でも GPA は 2.0 が一つの基準になっています。いま部活はやっていませんが、高校のときはバスケットボール部でした。高校でも大学でも GPA が 2.0 未満だと活動を停止させられます。大学でも N C A A 加盟のクラブでは、基準 GPA が 2.3 以上あります。

高校のときのバスケット部で、友達が突然練習に来なくなったことがあって、なにかあったのかなあ？と思っていたら、実は GPA の問題だったということがありました。

アメリカの成績評価を説明する必要があるだろう。一般に成績評価は A (九十点以上, GPA では四ポイント)・B (日本の A, 三ポイント)・C (日本の B, 二ポイント)・D (日本の C, 一ポイント)・F (不合格) の五段階である。大学では五段階よりさらに細分化することもある模様で、特に統一ルールがある訳ではないらしい。

余談。ジャスマミンの G M U 入学が決まったとき、彼女の母親が私に聞いてきた。「George Mason ってフリーメイソンと関係あるの？」って。アホか。州立だぞ。George Mason は人名。合衆国憲法を作ったときのヴァージニア州の代表だった人。

入学・寮・ガイダンス

アメリカの大学は日本の大学と違ってキャンパス内に寮がある事が当たり前です。一年生はみんな強制的に寮に住まわされ

る場合が多いです。なぜなら、アメリカの大学は課題がとても多く、自動車などで家に帰って、また早く起きて大学に移動するより、キャンパス内に住む事で時間の無駄を省けるのと、学校が始まってから新入生のイベントや部活やサークルの紹介などがたくさんあるからです。学校のウェブサイトに寮の申し込みをするところ記載されているので、そこに名前と学校側からの質問があるのでそれに回答して寮に登録します。しかし、一年生はたくさんの方が登録するので、学校が始まってから一、二年生も多く、問題になっています。一年生は二人部屋か三人部屋かを選択できて、ルームメイトも自分たちで roommate など SNS を使って探して、寮の申し込み提出期限までにルームメイトの名前と学籍番号を記入する欄があるので、そこに記入します。入寮日も寮に持っていくものもウェブサイトに載っているのので、入寮日前までに準備をします。入寮日は人が混雑するので、各部屋によって日や時間帯が違います。私は八月の一六日、朝の九時から十二時までが指定の入寮時間でした。

アメリカの大学は日本のような入学式はないのですが、学校が始まる一週間前から新入生の歓迎会やイベントがたくさんあります。アリーナへ行ってスポーツをしたり、大きな広場で自己紹介をしあって新しい友達を作ったりします。また、キャンパスがとて広いのでグループになって自分たちのクラスの場所を調べに行ったりもします。さらに大学が始まってからも新入生のためのイベントやクラブ紹介があります。

授業開始は八月二十一日。ガイダンスというものはなく、最初の授業からいきなり勉強を開始します。先生がシラバスを配

るのですが、そこに授業の内容や毎週ごとのスケジュールや単元が記載されており、テストの日や宿題の日もチェックする事ができます。だから最初の授業も先生がシラバスの内容を少し読むだけでそのまま普通に授業開始。その後は家に帰って自分たちでシラバスを読みます。

時間割

取る授業は専攻によって違うのですが、クラスを決める際に学校のウェブサイトにて専攻ごとに取らないといけないクラスが全部載っている、それに合わせて時間割を決めます。また学校のウェブサイトにてクラスを登録できる欄があるので、そこに自分の取るクラスを検索し、時間や教授の名前も載っている自分で取りたい時間を選んで決めていきます。

なお私は大学出願のとき数学を専攻に選びました。専攻は入学後に変えることができます。伯父のアドバイスなどがありましたが、数学以外で興味を持てる専攻が見当たらなかったため、専攻は数学のままにしました。

ここでアメリカの大学の学位の説明が必要だろう。アメリカの大学で授与される学士の学位は一般にBA (Bachelor of Art) またはBS (Bachelor of Science) である。あえて日本語に訳するならば、それぞれ学士(文系) 学士(理系) になるだろう。ジャスミンはBAの数学専攻である。私としてはコテコテのリケジョになってほしくなかったのだが、BAの数学専攻とのことで胸をなでおろしたものだっ

た。数学が得意な文系というのは、伯父としても望ましいところである。

私はジャスミンにああしろこうしろと言わないことにしているが、それにしても専攻を数学にするというから、さすがに言った。You MUST learn R and Python. If possible you'd better learn SAS and/or SPSS. 数学専攻となれば就職活動ではデータ分析とかいう話になるだろうし、RやPythonができれば問題はないけど、できなければ、え？数学専攻なのにRもPythonもできないの。ってなことになる。RもPythonも無料だし。企業や業界によってはSASやSPSSになるだろうけれども、これらはプロプライエタリで、アカデミック価格でも結構なお値段になる。だから大学の授業で習う機会があればきちんとやった方が良くというのが伯父としての意図である。

GMUは二セメスター制で、前期は八月の中旬から十二月の中旬まで、後期は一月の中旬から五月の中旬までで、前期の時間割は六月から、後期の時間割は十一月から登録することができます。

時間割や専攻について詳しく知りたい場合は各専攻にアドバイザーがいるので、その人たちにオンラインか直接学校で会って話し合うこともできます。私も時間割や専攻を決める際にオンラインでアドバイザーと会う予定を決めて、何回も話し合いました。各学期に最大十八単位取れて、卒業するのに百二十単位必要です。だから各学期に十五単位ずつ取るのが一番良いと私の大学では言われています。最大で取れる単位が少ないの

時間割（前期）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
1限(09:00-10:15)				日本史	
2限(10:30-11:45)	外国語		外国語		外国語
3限(12:00-13:15)					
4限(13:30-14:45)					
5限(15:00-16:15)		数学		数学	
6限(16:30-17:45)			世界史		
7限(18:00-19:15)					

時間割（後期）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
10:30-11:45		微積分・ 三角関数		微積分・ 三角関数	
14:30-15:30		コミュニ ケーショ ン基礎			
15:30-16:20	生物学		生物学		生物学

※後期には他にオンデマンド授業「アジアの宗教」と「近代日本文学」がある。「コミュニケーション基礎」は対面授業に加えオンデマンド授業がある。

で一つでも単位を落とすと四年間で卒業するのが大変になるので、みんな単位を落とさないように毎日勉強しています。

履修要領はそれなりに複雑であるから、ジャスマンからの聞き取りを元に私が解説することにする。まず卒業に必要な単位は百二十単位であり、個々の科目は半期で三単位が基本のようだ。

そもそもGMUにはMason Core (MC) という全学共通コア・カリキュラムがある。これは一般教養を幅広く、さらに専門性を高い方向へ拡張したようなものであるように見える。一般教養科目と専門科目の統合版といったところか。

東京大学は一―二年次に駒場キャンパスで一般教養を学び、三年次で本郷キャンパスの学部学科に配属されるが、二年次までに履修すべき科目の単位を落とし、三年生になっても駒場キャンパスへ通うケースがあり、これを「駒場返し」と呼ぶとのこと。しかしGMUのMCは（一般）教養科目と専門科目とが統合された形であるから、三年次以上でもMC科目を履修するのは普通である。

ジャスマンはBAの数学専攻コースであり、専門科目が三十八単位、MCのうち指定された科目の四十単位が必修である。残り四十二単位はいわゆる選択必修であり、MCの科目群のうち自分の専攻外のものを取らなければならぬが、うち外国語十二単位が実際には必修である。つまり百二十単位のうちMC科目が八十二単位を占め、三分の二を超える。当然ながらMC科目は三年次までに履

修するのが一般的である。

アメリカの大学には専門ゼミナールがなく、したがって卒業論文もないのだが、MCに置かれている科目 Capstone (半期三単位) が学士号認定演習となっており、これも必修である。もちろん Capstone は四年次でなければ履修できない。

念のため BS の数学専攻カリキュラムを見てみたが、必修の MC 科目は五十四単位、加えて選択必修が多少あるので実質的には六十単位程度になるようだ。したがって BS であっても MC の比重は高い。

実際の履修は半期十五単位、通年三十単位、四年間で百二十単位と均等に履修する形態になっている。半期で最大十八単位まで履修することが可能ではあるが、十五単位を超える分については学費を余計に支払わなければならない。したがって地道に半期十五単位、四年間で百二十単位を確実に取得することが至上命題となる。だからジャスミンが言うように、一科目でも単位を落とすと四年間で卒業は極めて困難になる。また GPA 2.0 未満の場合は進級できない。ここでも GPA 2.0 という基準が登場する。これがアメリカン・スタンダードか。

日々の学習

大学で受ける授業は専攻によって全く違っていて、朝の七時から始まるものもあれば、夜の十時まであるものもあります。

私の場合、前期は朝早いものだと九時からで、遅いものだと午後四時半から七時までの授業がありました。

学生は各自ノート PC を持っている事が前提で、ほとんどの学生がノート PC と同様にタブレット端末を持っている事が多いです。また学生は多くの授業でタブレット端末をノートの代わりに使っています。Collabte や Notability といったアプリがあり、タブレット用のペンを使って手書きでノートを取ることが出来ます。

GMU では Blackboard というシステムが使われています。Blackboard には各クラスの授業の成績や課題を提出するフォルダー、テストや授業のカレンダーがあり、毎日 Blackboard を確認することで、課題の期限や成績を常に知ることが出来ます。課題の提出先は Blackboard で、紙を使った課題の場合も紙をスキャンして PDF にして提出したり、Blackboard に直接文字を入力して提出するような課題もあります。

Blackboard は名城大学の WebClass と同様のシステムで、シェア世界トップとのこと。

数学や外国語クラスでは、タブレット端末のノートではなく紙を使いますが、提出物がある際は紙をスマホでスキャンして、ノート PC かスマホに PDF として保存し、Blackboard に提出します。紙のワークシートが出された場合は次の授業の日に提出します。数学の課題はオンラインの CBT (パソコンを使って行うテスト) が基本で、小テストは授業中に受けます。

私の大学はアメリカでは学問的水準が高く、大学教育が充実していることで知られていますが、実際には教授や専攻によっ

て大きく違ってくる。

例えば私のルームメイトの教授は blog.com の先週のフォルダーに今週の課題を間違えて入れていて、誰も課題を終わらせられなかったのに学生のせいにして減点をしてきたり、出席が必要なクラスでは風邪やコロナの場合は病院の診断書などをメールで送れば欠席にはならないのが学校のルールなのに、私の友達がコロナで休んで診断書も全て提出したのに欠席にされたり。授業内容とは全く違うテストや小テストが出されたりすることも多いため、予習や復習がこの大学で良い成績をとる鍵となります。

世界史の教授はいつも話だけして、私たちはただ聞くだけで、何を学んでいるのかよくわかりませんでした。宿題はテキストを毎週五十ページ読まなくてはいけなし、教授が毎週クラスのウェブサイトにトピックを載せて、それについて自分の意見を書くのも課題の一つでした。教授が載せたトピックには一時間半の動画を見て答えなければいけなかったり、三十ページの資料を読んでエッセイを書かなくてはならなかったりで、それプラス毎週五十ページのテキストを読むとなると、この一つの世界史だけでも課題が多く、私たちは世界史だけを取ってるわけではなく他の授業もあるのにこの量だと課題が終わらないので、みんな常に課題に追われながらの生活です。

前期の数学は主に三角関数とグラフの書き方を授業で教わりましたが、教授が授業であまり習っていないような小テストの問題を突然出してきたので、学生全員が困りました。課題は授業で教授が教える内容と全然違うので、みんな協力して、時

には週末に集まって課題をこなしました。

教授にはオフィスアワーがあり、その時に直接質問しに行けるのですが、オフィスアワーの日の前に課題提出が締め切りになっていたので、結局自分たちで課題を解決しなければなりませんでした。Eメールで送る方法もありますが、すぐに返信は返ってこず、ほとんど締切日の後に返信が返ってくるため、まったく当てになりませんでした。毎日課題に追われ、友達と遊ぶ時間もなく、週末も図書館で過ごすことがほとんどです。私とルームメイトは毎日夜の十二時まで図書館に行って勉強しています。休みは食事休憩だけで、朝の三時まで勉強するのが当たり前になっていて、朝起きたら手早く着替えクロックスを履いて授業に出るのが普通でした。メイクするゆとりなんてありません。女子学生はパーティーでもない限りメイクしないのが当たり前です。

前期の最初の一か月はもう心も体も疲れまくって、この一か月の間に一回は泣いて大学を辞めたいと言ってる人がほとんどでした。

八月の中旬に寮に入ってから約三か月経ち、学生達も大学に慣れてきましたが、九月下旬前に各クラスで中間テストがあったため、その時期はたくさんの方が苦戦することが多く、多くの学生が図書館や学習室を借りて夜遅くまで勉強する姿が見えました。私も全てのクラスで中間テストがあったので毎日朝早く起きて、夜の遅くまで勉強するということが続きました。中間テストは無事に全て平均点の上の点数も取れたこともあって一安心。中間テスト後はあまり課題も多くなく、小テストもな

いのでゆつくりできる時間が多くなりました。ハロウィンの日にはパーティーもあり、たくさんの人が仮装して楽しんでいました。大学が始まった頃は、ほとんどの人が泣いていました。この頃にはみんな慣れてきたので前よりは良くなり、精神的にも楽になっているようでした。でも課題は相変わらず多く、あまり休みもありません。十一月から後期のクラスを決めていくので、この時期には沢山の人がアドバイザーと相談して科目を選びました。

厳しいんだか減茶苦茶なんだか良くわからないね。ところで伯父さんこの大学では授業評価アンケートがあるけど、GMUにはあるの？

学期末にあります。でも強制ではないので、みんなやっているかどうかまではわかりません。アンケートに答えたら小テストなどに加点する教授もいます。

え!? ということは、実名なの？

実名です！ 教授は誰がどう答えたかわかるようになっていきます。ちなみに ratemyprofessors.com といって、全米のすべての大学のすべての教授のクチコミのウェブサイトがあります。これも回答者は基本的に実名です。

学食はマズい！

大学生の食生活は人それぞれですが、GMUでは寮に住んでいる場合、一年間の食事代を払います。食事代は学校内のレストランやコンビニでの一万円分の食堂券が含まれています。食

堂券は一日三回使えます。

GMUには食堂が五つあるのですが、どこでもその食堂券は使えます。食堂はピュッフェ形式なので好みの量を取れるし、いろんな種類の食べ物があります。ヴィーガン用の食べ物やジャンクフードにエスニック料理も出ることがあります。また毎日ピュッフェの食べ物はずいぶん、デザートもたくさんあります。寮に住んでない人でも一年間の食事代を払うことはできますが、ほとんどの人は払わないで、近くのレストランやコンビニ、マクドナルドなども学内にあるので、それで食事を済ませることが多いです。また食堂に行く回数に限りがあったりするので、各自スーパーで冷凍食品やカップラーメンを買って置いて、それを食べることもあります。

アメリカの大学の学食は基本的にマズいです！ カロリーも高いし、不健康なものが多く、日本の大学の学食とは正反対です。二〇二三年の夏に一時帰国して、そのとき日本の友達に誘われて日本体育大学へ行ったのですが、そのとき日本の友達に誘われてアメリカのクオリティーの低さに絶望しています。アメリカの大学の食堂が美味しいと言った人は一人もいなくて、私も家の食事がとても恋しいです。

伯父さんもアメリカの大学に留学した人の話をいろいろ聞いてきたけど、学食はマズいとしか聞いたことがないねえ。

ところでさあ、ジャスミンが送ってくれた写真にムスリムの女子学生が写り込んでいるのがあったけど、そういう学生はどうしてるんだろうね？ GMUほどの規模の大学

であれば、リベラルな考え方としてはユダヤ人向けのコーシヤの食堂があつてそれを使うか、なければ大学の外のコーシヤの店に行くか、どちらかになると思うんだけど？

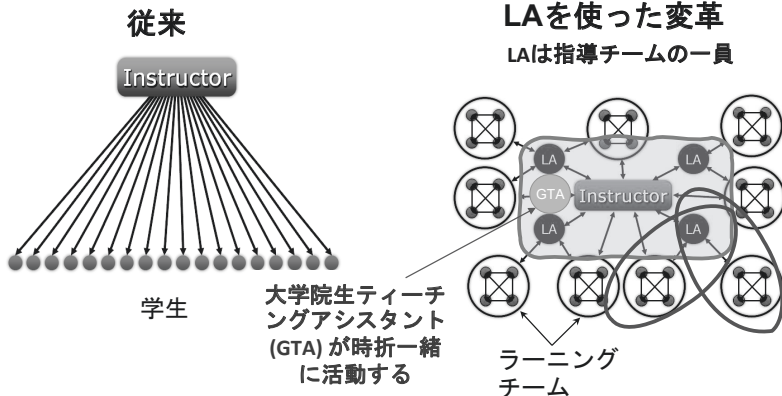
ヴィーガンのメニューはあつても、コーシヤはありません。もちろんGMUにはユダヤ人もムスリムもインド系の学生も大勢います。でもそうした学生たちに配慮した食堂はありません。だから食堂では食べられるものだけ食べるしかないそうです。私のルームメイトはエチオピア系で、牛肉を食べてはいけません。牛肉を避けて食べるしかないと言っています。

なんだかなあ。ジャスマンはThanksgiving Dayの学食の写真を送ってくれたけど（味はわからないが見た目は無駄に豪華）、何というか、いかにもアメリカ南部の白人の料理なんだよねえ。GMUはアメリカ南部の北の端っこにあるのだが、どうにも南部の白人の論理でもって動いてるよーうに見える。何と云えば良いのかなあ？ politically correct と云うか politically corrected discrimination な感じが思える。

アルバイト

これまで書いてきた通り、そもそも大学生にアルバイトをする時間なんてありません。だからアルバイトで大学の学費をまかなうという発想は、アメリカでは絶対にありえません。幸い私は父に学費を出してもらっていますが、奨学金を「借りて」学費をまかなっている学生が圧倒的に多いです。ほぼ全員と云っていいです。借りていないのはスポーツ推薦の学生か、親

LAを使ったコース変革の一般的なモデル



出典：OTERO, Valerie 『ラーニングアシスタント (LA) モデルとその影響』 広島大学高等教育研究開発センター（公開研究会資料）、2021年、p. 8
<https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/03/2a55279ec70ae7ad5434741e40c3fb87.pdf> (2024年5月16日閲覧)
<https://web.archive.org/web/20210716185727/https://rihe.hiroshima-u.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2021/03/2a55279ec70ae7ad5434741e40c3fb87.pdf>

が軍隊関係か、いずれかに限られます。

ジャスマンの父は軍関係者である。なお GMU は州立だが、州立だからといって学費が安い訳ではない。ジャスマンは形式上ヴァージニア州民だが、州民価格でも本学の経営学部・経済学部と同水準である。

だけでもうすぐ後期試験で、試験が終われば夏休みだし、夏休みにバイトしたいなあと思って、いろいろ探しました。

そうしたら、たまたま大学内で数学のクラスの Learning Assistant (LA) の募集があつて、それに応募しました。なんとか面接をクリアして(たぶん GPA も見られたと思います)、二年生から LA として働くことになりました。

本学の TA (Teaching Assistant) みたいなものだが、位置づけは大きく異なる。TA は純然たる教員のアシスタントだが、LA は教員と受講学生と共に学び、LA は授業内容や授業の進行について教員に助言する権限を持つ。ある意味で究極の FD 活動と言えるだろう。

定期試験

成績の評価基準は科目によって違いますが、平均としてはオンラインの課題が10%、毎週の小テストが15%、授業中のワークシートが15%、中間テスト15% (二回あるので合計30%)、定期試験が30%というところだ。

試験はすべての科目で持ち込み一切不可です。数学であつても電卓は使えません。電卓やスマホ、全てのものが禁止されて

います。カンニングペーパーがダメなのは言うまでもありません。

だからしっかり試験対策をする必要があります。テスト前になると各教授がテストの *review* 用紙を配ってくれたり、テストに出そうな問題をクラス内で復習してくれます。私のテスト対策の方法は、二週間前からコツコツ復習していて、テスト前には全ての問題を余裕で解けるようにしています。暗記ものが多い理科や社会はオンラインでシャッフルカードを作って暗記しています。また範囲が広いため私は授業が終わった後必ず復習をして、わからないことがあつたらメモを取って教授にEメールを送るか、次の授業で質問して解決しています。テスト期間は朝の三時まで図書館か、自分の部屋ですと勉強をしています。しかし同じ教科を毎日やるのは辛いので、一日おきに教科を変えてやっています。

GMUには二か所、学習室を借りられる建物があります。一つ目は図書館です。図書館は五階建てで大きく、横に広くて、各階にたくさん学習室があります。学習室は予約制で、一週間先まで予約することができます。一人一日最大四時間まで予約することができます。図書館は朝八時から午前三時まで開館していますが、試験期間になると全室埋まっていますが、そんな時間帯でもほとんどの学習室が埋まっています。試験以外の時も午前十時から午後十一時までには常にパンパンで、たくさんの人が平日や休日にもかかわらず常に利用しています。

またもう一つの建物はJCセンターと言つて、GMUの中

心にある大きな建物です。地階から三階まであり、フードコートや雑貨店などが一階にあります。ここにも一階から三階まで学習室があるのですが、テスト期間中の満室は当たり前、それぞれが平日でも常に満室です。図書館と違ってこの建物は朝七時から夜十二時まで開館しています。フードコートもあるせいか、お昼頃は人がとても多く建物内が混雑します。

試験は学期ごとに中間試験一回と期末試験が一回あります。試験の時間はクラスごとに違います。

私たちの授業時間は単位によって変わりますが、授業時間が九十分の科目の場合、中間テストは九十分で、期末テストは倍の百八十分つまり三時間になります。試験は授業時間に含まれます。

試験は終わった人から帰れるのですが、簡単ではないのでほとんどの人がギリギリまでテストを受けている印象です。数学は試験だけでなく授業内でも電卓は禁止されています。

ジャスマミンが高校に進学する際、高校の授業と大学入学共通テストSATでは電卓を使うというので、私はSAT持ち込み可の電卓の定番 TI (Texas Instruments) の品物で、ちょっと張り込んで Nspire CX II CAS (日本語と英語と両方の取扱説明書つき) を贈ったものだ。高校では活用したかも知れないが、結局SATは受験しなかった訳だし。さすがに数学専攻となれば電卓不可ということか。

CBT (パソコンを使って行う試験) では学生の不正行為を防止する特殊なブラウザ LockDown Browser を使います。数学

以外のクラスはCBTがほとんどなので、教授がパソコン教室を借りてそこでCBTを受けるのですが、それぞれのパソコンにカメラが設置されていますし、LockDown Browser は外部のウェブサイトを見たりすることができません。だからテストでの不正行為は不可能です。

このようにして後期の定期試験も終わり、成績評価が出て、ようやく夏休み。成績はオールA、GPAは4.0でした。

〈了〉